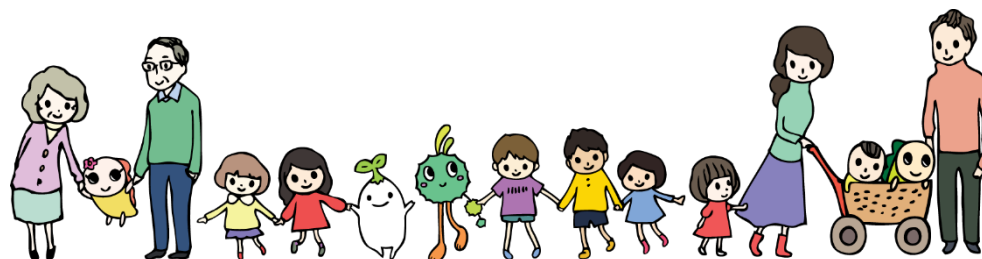


## 3月に実施した子どもからの意見聴取の取組・内容等について（報告）

1. 「子どもワークショップ」第3回（3月3日）の実施報告〈2 p〉
2. 区内特別支援学校での意見聴取
  - 1 都立永福学園（3月5日）〈3 p〉
  - 2 区立済美養護学校（3月8日）〈4 p〉
3. 中瀬中学校意見交換会（3月6日）〈5・6 p〉
4. 杉並区子どもの権利条例を考えるワークショップ  
in文化学園大学杉並中学・高等学校（3月11日）〈資料3別紙〉※子どもの権利擁護に関する審議会委員3名が見学



# 1. 「子どもワークショップ」第3回の実施報告 (3月3日実施)

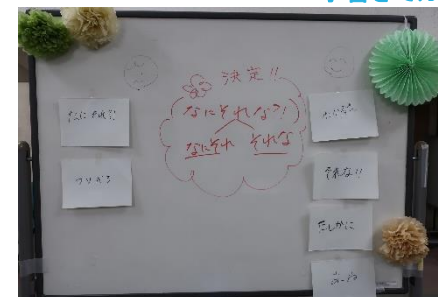
日時：令和6年3月3日（日）13時30分～16時30分 場所：杉並区役所 第4会議室  
参加者：8名（内訳は下記のとおり）

参加者内訳	学 年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
	人 数	2	0	0	0	2	3	0	0	1

- 第3回ワークショップでは、子どもの権利について考える『「なんでやねん」すごろく』の杉並区版をみんなで作成しました。
- 2グループに分かれて、事前課題で考えてきた、学校や家、普段の生活の中で「変だな」と思うこと「なんでやねん」や、「いいよね!」と思うこと「あるある」のカードを作りました。
  - ・宿題をしようとした時「宿題をやりなさい」と言われる。
  - ・児童館の代わりに放課後居場所ができたのに、中学生になったら遊べなくなる。
  - ・「子どもだから」「もう大人なんだから」って矛盾したことを言われる。
  - ・先生の教え方が上手い。
  - ・なぜ児童館などの施設の大人の人はあんなに優しいのか。
- 手書きでカードを作成した後、みんなで意見を出し合い、すごろくの名称を考えました。いい場面、悪い場面の両方が入ったすごろくであることから、「なにそれ?」という突っ込みと、「それな!」という共感の両方を入れた「なにそれな?!」すごろくに決定しました。
- 次にすごろくのマスのイラストを書いたり、お題マス（例：杉並のよいところを教えて!、最近あったチョット嫌なこと等）を考えたりしながら、すごろく盤を作りました。
- この後、3月24日のリハーサルを経て、3月30日の第4回ワークショップにおいて、ワークショップに参加したきっかけや、やってきたこと、大切にしたい思いなどをインタビュー形式で区長や審議会委員に向けて発表します。発表後の交流タイムは、作成したすごろく盤で参加した大人と子どもたちが一緒に遊び、子どもたちが普段の生活で感じていることや子どもの権利条約を知ってもらう機会としますので、多くの委員の方のご参加をお願いします。



手書きでカードを作成中



すごろくの名称を考えました



イラストもすべて手描きです



2グループで半分ずつ作成しました



参加者で記念撮影

## 2-1. 都立永福学園 (3月5日実施)

3

永福学園PTA本部のご協力により、子どもの権利擁護に関する審議会委員5名と子ども家庭部職員3名が参加して学校見学と保護者及び生徒との意見交換会を行いました。

### [学校見学]

- 肢体不自由の子どもたちを対象とした小学部・中学部・高等部、及び高等部の就業技術科を副校長の説明を聞きながら見学しました。

1～3階までのスロープを活用した「EIFUKU GALLERY」



### [意見交換会]

- 第一部は、PTA本部役員4名と「保護者（大人）が考える子どもの権利」をテーマに意見交換を行いました。

#### 意見抜粋

- ・ 車椅子での外出時に、子どもたちに覗かれたり、追いかけられたりすることがよくある。興味もあると思うが不快さも感じる。子どもが子どもを差別しないで、どの子も同じように普通に歩けるようになるとよい。
- ・ 一卵性双生児で長男は健常児だが次男に障害がある。きょうだい児も本人も差別されないこと。障害があっても特別視されずに普通の存在として認められたい。生産性が重視される世の中だが、何か特化した才能がないとダメということではなく、当たり前居ていい居場所があるといい。
- ・ 家族で出かけると車いすを覗かれたり、「あんなに大きいのにベビーカー乗っている」等を聞こえるように言われたりする。何で自分の兄だけそう言われるのか、見られたり聴かれたりするから説明書をつくって車椅子に貼っておく？という意見が小4の妹からあった。普段、取り立てて親に何かを言うことはないが、この意見交換会がきょうだい児と話をするきっかけになり、きょうだい視線で日々色々と感じていることがあるとわかった。
- ・ カリフォルニアでは午前中を特別支援クラスで過ごしても、午後は一般クラスに交じって活動するなど同じ空間で過ごすことが当たり前だった。障害児のパディ役となる生徒もいてイベント等を通じて関係性を築くこともできたとし、親やコミュニティ含め、障害児を受入れて一緒に盛り上げようという雰囲気があり、多様性を子どもの頃から体感できる環境にある。

- 第二部は、肢体不自由教育部門高等部（準ずる教育課程）3年生2名と、「子どもにやさしいまちって、どんなまち？」「好きな場所って、どんなところ？」「学校を卒業するにあたり永福の後輩達につなげていきたい思い」等をテーマに意見交換を行いました。保護者2名、PTA本部役員4名も同席しました。

#### 意見抜粋

- ・ 犯罪がない街・大人が見守ってくれる街：例えば、男女ともに安心して公共機関を利用できるように乗車時の車椅子ユーザーに対するアナウンスを工夫するなど、弱者を狙った犯罪が起こらないよう安心できるまちになるとよい。
- ・ 公園は登る遊具だけではなく、手を使う遊具や一緒に遊べるユニバーサル遊具などが増えると嬉しい。
- ・ 車椅子ユーザーにとって、特に横断歩道の段差のバリアフリー化がもっと進むと移動がしやすくなる。
- ・ 電車移動の場合、エレベーターやトイレ利用等も含めてプラス1時間～1時間半の移動時間を見込む必要がある状況。
- ・ 「みんなのトイレ」ではあるが、障害者が本当に必要な時に使える様に、表記などの工夫があると嬉しい。
- ・ 高校1・2年生は泊りの行事があったが、高校3年生は日帰りの卒業遠足だけで残念だった。

対面で意見交換を行いました。



## 2-2. 区立済美養護学校（3月8日実施）

子どもの権利擁護に関する審議会委員7名と子ども家庭部職員4名が参加して学校見学と保護者との意見交換会を行いました。

### [学校見学]

- 小学部・中学部を主任教諭の説明を聞きながら見学しました。見学後、校長先生から副籍交流等に関して説明を聞きました。



### [意見交換会]

- 保護者27名と「こうしたらもっと子どもにやさしいまちになる」ということをテーマに意見交換を行いました。

### 意見抜粋

- ・どんな子どもでも健全にさせるまち。揶揄された経験があるわけではないが、先回りして気にしてしまい外に出る経験をほぼしていないので、障害について、より周りが理解してくれて遊びに行きたいと思ったらいつでも行ける空気になるとよい。
- ・学童は週3日以上という決まりがあるが、放課後等デイサービスの送迎の関係で厳しいこともある。障害児は1時間1人で過ごすことが難しいのにそのような事情が考慮されないのがもどかしく、柔軟に対応してもらえるとよい。
- ・放課後等デイサービスは長期休みの期間は11時からなど、働く親にとってはどうにもこうにも厳しい時間帯なので、長期休みの期間は親に来てもらってみてもらったり、中学生になって少し留守番できるようになったので1人で留守番してもらったり。小学生は学童クラブがあるが、中学生になると預け先がない。
- ・小4以上で走り回ってしまう子どものことを、みんなが遠巻きにして「あの子（人）ってああだね。」という感じで見ている。障害児（者）のことを理解してくれるまちになって欲しい。特別支援学級がある学校の保護者はわかってくれる。障害児（者）と触れ合ったりした経験があるかないかで違ってくるように思う。
- ・小学校低学年のうち是一緒に過ごしても大丈夫だったが、学年が上がると副籍のときにできることが少なくなってきて、子ども自身もそのことがわかってくると行きたがらなくなった。地域交流はしたいが、子どもが行きたがらないのにそこまでするかどうかが悩む。その子どもに合った内容で実施したり、その子ができる活動をつくったりという工夫があれば行けるのに、行かせることについてすごく迷う。
- ・バス停で子どもと通学バスを待っていたら、自転車の人に怒鳴られてびっくりした。たばこポイ捨ての罰金制度ができてから、ポイ捨てする人が少し減ったように感じているので、子どもの権利に関する条例の中にマイノリティのある人への暴言等に対して抑止力につながることを入れられないか。何もしてないのにという理不尽なことがなくなるようにして欲しい。
- ・副籍交流について、以前、親子で行ったときはお客様のようにってしまったので、こちらが大勢の中に行くのではなく、通常級の子どもたちが10人くらいのグループで済美擁護学校に来てくれたらいいのではないかな。



### 3. 中瀬中学校意見交換会（3月6日実施）

中瀬中学校が昨年度から実施しているSDGsに関する授業の一環として、SDGsの項目の一つ「すべての人に人権を」について学び考えること、生徒が「子どもの権利」を自分ごととして捉えてどのような権利が必要か意見交換を行い、「（仮称）子どもの権利に関する条例」の検討過程に意見として届けることを目的として、全学年が参加する異学年交流授業「子ども条例を学び意見を届けよう」が開催されました。（子どもの権利擁護に関する審議会委員4名が見学）



- 1～3年生のそれぞれの学年が1・2時間目と3・4時間目に分かれ、5～6人の異学年グループを約50グループ作りました。
- 冒頭に校長先生からSDGsとの関係性や今回の意見交換会の趣旨についての説明があった後、全体ファシリテーターを務める合同会社Active Learnersの山ノ内さんの進行のもと、各グループでアイスブレイクを行い緊張を和らげました。
- 次に、中瀬中学校学校支援本部「結」の伊藤益子さんから「こども基本法の6つの大切な考え方」について、スライドを使いながら情報提供がありました。

今日みんなに伝えたいこと！4つ！

- 1 すべての人は、生まれたときから「自分らしく生きる権利」があります。人間としての権利（人権）を持っています。
- 2 「人権」とは、「人としてあたりまえに認められるべきもの」です。
- 3 「子どもの権利」はすべての子どもたちが心も身体も健康で、自分らしく育つために必要とされている権利です。
- 4 子どもが大人へと成長するまでに、年齢に応じた保護や配慮が必要な面もあるため、子どもならではの権利も必要です。

「こども基本法」の6つの大切な考え方

- 1 すべての子どもが大切にされ、基本的な人権が守られ、差別されないこと
- 2 すべての子どもが大事に育てられ、生活が守られ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられること
- 3 すべての子どもが、年齢や成長の程度に合わせて、自分に直接関係することに関与を言えたり、さまざまな活動に参加できること
- 4 すべての子どもの意見が年齢や成長の程度に合わせて、大事にされ、子どもの今とこれからにとって最もよいことが優先して考えられること
- 5 子どもが暮らしている家庭のサポートが十分に行われること
- 6 家庭で育つのが楽しい子どもに家庭と同じような環境が用意されること

個人ワーク  
：自分の身の回りの権利について考えてみよう

★ワークシート①②に記入

「こども基本法」の6つの大切な考え方 のそれぞれの考え方は、10段階中でどれくらい認められている？ その理由は？

グループワーク  
：グループワークで個人ワークの内容を共有しよう

★ワークシート③に記入

個人ワークで記入した内容を順番に共有しよう。  
他の人の話を聞いて「いいね！」と思ったことはメモしておこう。

- 質疑応答の後、ワークシートを使って「こども基本法の6つの大切な考え方」のそれぞれが、10段階中でどのくらい認められているかとその理由を考える個人ワークをした後、グループ内で個人の考えを共有しながら意見交換を行い、他の生徒の意見でいいと思ったことはメモをとるなど子どもの権利に対する考えを深めました。

- 情報提供やグループトークで深めたことを参考にしながら、「自分たちに認められていると感じている権利」と、「自分たちに認めてもらいたい権利」について、端末または記入フォームから自由に記入しました。  
(意見総数354件 ログフォーム221件、記入フォーム123件)

※現在、意見全件を集約作業中です。集約後、改めて共有します。

## 意見抜粋

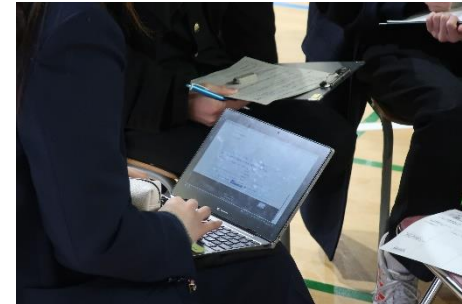


### 【自分たちに認められていると感じる権利】

- ・自分はいろいろなことをすることを教師や親、その他親戚などに認められてもらっていると思う。けど、それができない家庭もあることを考えると、総合的には70%くらいしか認められていないと思う。<その理由:「やってみたい」と感じたことをやらせてくれているから。(もちろん断られることもあるけど)>
- ・教育を受けること<その理由:学校に通っていて、いろいろなことを勉強する環境が整っていると思うから>
- ・戦争などに巻き込まれずに安心して過ごせること<その理由:今の日本では戦争が起こっていないし、生きていくうえで最低限必要なこと(衣食住)はほとんどの子供が認められていると思うから>
- ・食事、睡眠、着衣、義務教育受講、会話など<その理由:生理的欲求、社会的欲求、基本的人権の尊重のため>
- ・学校に行く権利や、普通に暮らしたりする権利は自分は認められていると思う。<その理由:当たり前のように学校生活を送ったり、暮らしたりできているから。>
- ・習い事など何かをすること 親に意見すること<その理由:自分は習い事にも行けて親に意見することで少し案が変わったなどという経験があるから>
- ・勉強をする、学校に通う、自分の意志でやりたいことを決める<その理由:自分や弟が弟の友達が当たり前に行っていることだから>

### 【自分たちに認めてもらいたい権利】

- ・自分が社会の一員で必要とされていること。<その理由:例えば、自分抜きでたくさんの友達が遊んでいたり、学習で自信がなくなってしまうと、自分は本当に社会にいる意味があるのかと感じてしまう。このことは不登校などの集団生活の中の社会問題に多く関係していると思う。誰もが本当に大切にされていると気づける環境を作る必要がある。>
- ・存在そのもの。<その理由:成人していないからという理由で軽蔑される場合もあるから。>
- ・将来の夢について<その理由:その道が厳しくてもやると決めたことなら最初から否定されたくないから。また、歌の道に行くとすれば様々な種類があるので分からないなら口を出さないでほしいから>
- ・自由に自分の意見を発言すること。<その理由:大人が優先されたり大人の意見しか聞かないのはおかしいと思うから>
- ・親と子供は違うこと。<その理由:親が自分の学力をもとに、達成の困難な高い学習の目標を押し付けてきたため>
- ・個性<その理由:個性が認められないことが嫌がらせやいじめにつながるため。>
- ・意見をはっきりと言えてその意見がしっかりと反映されること。<その理由:子どもにとって暮らしやすい場所は子どもの意見がないと作れないから。>
- ・これをやりたいと言ったらそれを応援して認めてほしい<その理由:やりたいという拒否られることがあるから>
- ・一度親から離れること<その理由:親に縛られている人もいるから>



**中瀬中興学年交流授業 意見記入フォーム**

中瀬中のみなさん  
今回は、異学年交流授業にご参加いただきありがとうございます！  
こちらは意見記入フォームです。下記を眺んでから記入してください。

●記入してくれた意見は、「子どもの権利に関する条例」の内容を考えている会議に転載して、杉並区の子どもに必要な権利を考えたときに参考にさせていただきます。  
●誰の意見なのかは、秘密にするので実際に記入してね。(名前を書く必要はありません)

★個人ワークでの意見についてお伺いします。

Q1. 子ども(自分)が「認められている」ことはなんだろう？

<その理由は？>

Q2. 子ども(自分)が「認めてもらいたい」と思うことはなんだろう？

<その理由は？>

★区の見聞録のテーマについてお伺いします。

Q3. 「子どもにやさしいまちって、どんなまち？」

<その理由は？>

Q4. 「好きな場所って、どんなところ？」

<その理由は？>

